

2023 年繊維学会秋季研究発表会の開催にあたって

実行委員長 櫻井伸一（京都工芸繊維大学）

皆様におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。今回の秋研は、今年の3月27日に文化庁長官をはじめとする文化庁の一部が京都に移転されたのを絶好の機会と捉え、「文化庁京都移転元年：繊維学会と繊維文化の新たな歩み」というスローガンを掲げ開催します。そのため、例年にはないカテゴリーとして基調講演を設け、文化庁と経産省の方にご講演をお願いするべく調整し、経産省伝統的工芸品産業室室長の塚本裕之氏の基調講演「織物を含む伝統的工芸品産業の現状と課題について」をお願いすることができました。また、恒例の特別講演としては、京都らしい伝統文化の観点から日本舞踊の若柳佑輝子氏にご登壇をお願いし「日本舞踊の心と技」の演題で、日本舞踊における所作の意味などを講演頂くとともに、実際に、日本舞踊の披露もお願いしております。海外でも講演活動を積極的にされておられますので、日本文化の海外発信の観点からも興味深いお話をお伺いできるものと期待しております。

今回初めて、日本繊維機械学会と日本繊維製品消費科学会の協賛として開催致します。従来の一般発表セッション（ポスターセッション、short 口頭発表（発表7分、質疑応答2分）もあります）に加えて、特別セッション「繊維に関する伝統産業と最新研究の融合、和装や染色と繊維文化について」（依頼講演のみ）、特別セッション「量子ビーム利用による繊維・高分子材料の構造解析」、若手産官学交流セッション（依頼講演のみ）、第59回染色化学討論会、高校生セッション（別日程でのハイブリッド口頭発表、ならびに、来場可能な高校生によるポスター会場の専用コーナーでのポスター発表）を実施します。内訳は、基調講演1件、特別セッション依頼講演4件、量子ビーム特別セッションの依頼講演2件、一般口頭発表145件（うち short 発表が6件）、若手産官学交流セッションの依頼講演5件、染色化学討論会（依頼講演1件、一般口頭発表7件）、一般ポスター発表49件、若手ポスター（審査あり）79件、高校生セッション5件です。合計298件という多数の発表申し込みを頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

高校生セッションを含む12のセッションとポスターセッション、染色化学討論会を合計10会場で開催致します。大会初日（27日）の開会式では、経産省伝統的工芸品産業室室長の塚本裕之氏と繊維学会副会長・辻井敬亘氏（京都大学）にご挨拶頂くとともに、日本繊維機械学会と日本繊維製品消費科学会のご来賓の方々にもご挨拶を賜る予定です。開会式直後に塚本氏の基調講演を、懇親会直前には若柳氏の特別講演を行います。午前中の基調講演の後は、ポスターセッションを行い、若手ポスター賞の表彰は、閉会式にて行う予定です。今回の懇親会は、対面立食形式で京都テルサ内の「うどんダイニング凜」にて実施します。大会2日目（28日）は、染色化学討論会と特別セッション「繊維に関する伝統産業と最新研究の融合～和装や染色と繊維文化について」を行い、その後の閉会式にて終了します。閉会式ではベスト高校生発表賞の表彰と講評、来年の年次大会の紹介、その他、繊維学会の行

事の紹介とともに、日本繊維機械学会と日本繊維製品消費科学会の行事の紹介も行って頂く予定です。

高校生セッションも今年は3年目を迎えました。今年は5件のお申し込みを頂いております。和紙やこんにゃく糊、繊維の微生物分解、折り紙ジッパーチューブ、熱音響冷凍機、カイコ・シルクの研究といった幅広い分野の研究発表です。年々、研究レベルが向上しているように見受けられ、本格的な研究に取り組んでいる高校生生徒さんの活気ある発表をご期待下さい。これまでは、コロナ対策のため、10分程度の発表の様子を動画に撮影して頂き、開催日当日までに秋研参加者限定で視聴して頂く方式でしたが、今年から対面開催に切り替え、試行致します。ただし、遠方からの現地参加は高校生、教員の皆様方にとっては困難を極め、また、月～金の参加も不可能であることが危惧されたため、オンライン併用、土曜日開催の別日程にて、口頭発表と質疑応答は11月25日（土）の13-15時に京都工芸繊維大学においてハイブリッドで実施することに致しました。発表時間+質疑応答で20分です。審査員の厳正な審査の上で、最優秀発表賞1件を授与する予定です。また、11月27日（月）のポスターセッションの会場に「高校生セッション」コーナーを設け、ポスター発表を行っていただきますが、現地参加が困難なため、発表者の来場は義務付けず、ポスター掲示にとどめます。タイミングが合えば来場可能な高校生もおられることを期待して、繊維学会秋研の活気あふれる発表の雰囲気を生で感じていただき、それを機に、高校生がサイエンスへの興味をさらに大きくし、将来の研究者や技術者に育ってもらえるように寄与したいと考えて、この取り組みを今年も実施し発展させる意気込みです。一般の参加者の皆さんもこの趣旨をご理解頂き、ご協力頂ければ幸いです。

また、11月28日（火）（閉会式終了後）～29日（水）に、若手研究委員会主催「若手交流セミナー2023～大津の繊維産業の歴史を学ぶ～」が開催されます。秋研閉会式の後、京都テルサからバス乗車にて大津市内の宿泊先まで移動し、入浴・夕食のあとで「繊維関連の研究および産業の未来を討論する会」を実施し、翌日は東洋紡総合研究所にて2件の講演会と東洋紡分析センターの見学が予定されています。また、別枠の見学会として、京都洛北の悠久の地で操業する川島織物セルコンの伝統工芸西陣織の見学、附設文化館見学会も開催致します。

このように、繊維3学会と関連のある日本文化を深掘りする盛り沢山の企画とともに、最先端の研究成果の発表と討論を皆様方と共に対面にてエンジョイしたいと思っております。ご参加の皆様ならびにご関係の皆様は厚く御礼申し上げます。最後になりますが、ご参加の皆様には各セッションでの活発なご討論を宜しくお願い申し上げます。末筆ながら、今回の秋研要旨集に広告を掲載して頂きました企業様ならびに、web page にロゴを掲載して頂いている企業様に厚く御礼申し上げます。